

実践事例

学校名 _____

1 実践の概要

(1) 取り組みのねらい

- ①早期発見・早期対応のための生徒からの情報収集。
- ②生徒個々の人間関係の把握。

(2) 取り組みの内容

- 調査名 ①学校生活に関する調査（毎月1回）
②いじめに関する調査（年3回：学期に1回）
- 調査対象 生徒全員
- 調査項目 人間関係状況、金銭強要の有無、いじめ被害経験、いじめ加害経験
善行行為、学校への要望、虐待の有無
- 調査方法 質問紙調査法（混合法）
- 分析手法 学年単純集計→追跡調査→生徒指導委員会→学年会→生徒指導委員会

2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

- 人間関係は良好である。
- いじめを訴える生徒が減少している。
- 善行行為は、学年便り・全校集会等で紹介することにより、毎回増加している。
- 要望の中で、先生方ともっと話せる環境を整えて欲しい、休み時間の様子を観察して欲しい、このような調査を継続して欲しいなどの意見が多く、生徒の生の声を聞くことができた。
- 他の生徒からの訴えで、早期発見に繋がり、早期対応ができた。
- 調査実施直前に、全校一斉に調査の趣旨や内容、結果の活用方法、内容の守秘など話した結果、生徒たちも真剣に受け止め、記入していた。

3 取り組みの評価（対応についての評価）

- 調査結果を元に、追跡調査を行い、原因解明に努めた結果、いじめ減少に繋がったと思われる。
- 調査回数を重ねる中で、今の取り組みを忘れず、生徒の生の訴えに我々教師が誠意を持って対応していくことが一番大切だと思われる。
- 生徒との日常的な触れ合いや観察の機会を増やし、情報収集に努め、生徒からのSOSのサインを見逃さないことが大切である。

